

BUDŌ

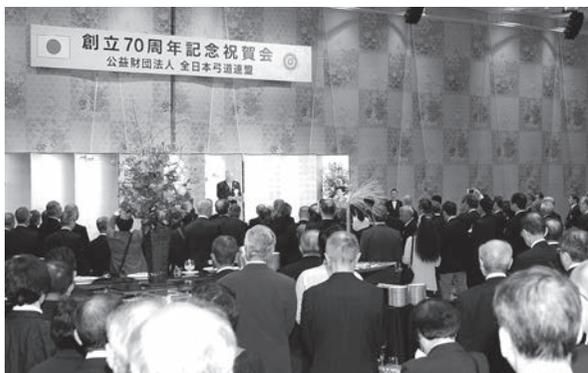
NEWS

今月のニュース

平成 31 年全日本柔道選手権大会



全日本弓道連盟創立70周年 記念式典・記念祝賀会



第34回皇后盃全日本女子柔道選手権大会

平成31年全日本柔道選手権大会

ウルファアロンが初の日本一に

新時代の幕開けの予感

平成31年全日本柔道選手権大会（主催Ⅱ講道館、全日本柔道連盟）は4月29日、日本武道館において開催された。大会には推薦選手3名と全国各地の予選を勝ち抜いた代表39名の計42名が、平成の最後となる伝統の体重無差別柔道日本一を目指し、戦いに臨んだ。

大会会場となった日本武道館には午前10時の開場を前に長蛇の列が出来、開会式前にはほぼ満席となった。さらに例年以上の報道陣が詰め掛け、注目度の高さがうかがえた。

決勝戦はウルファアロン四段（関東・了徳寺学園職）が加藤博剛五段（関東・千葉県警察）を、ゴールデンスコアの末、支釣込足で技有を奪って、初優勝を果たした。ウルフは全5試合中4試合を投技による一本勝で制し、世界柔道選手権東京大会へ弾みをつけた。なお、3位には太田彪雅参段（東京・東海大学）と小川雄勢参段（東京・パーク24）が入賞した。



決勝・ウルフ アロン対加藤博剛＝支釣込足でウルフ（右）が勝利し、初優勝を飾った



Aブロック・3回戦＝太田彪雅（右）対飯田健太郎



Aブロック・3回戦＝原沢久喜（右）対前田宗哉

序盤戦（1～3回戦）

■Aブロック

試合は国際柔道連盟試合審判規定（2018―2020）および全日本選手権大会申し合わせ事項で行われ、試合時間4分間、スコアに差がない場合はゴールデンスコア（以下GS）による時間無制限の延長戦を行い、勝敗を決した。

なお、スコアは「一本」、「技有」、「有効」の3種類で、「技有」が2つで合技「一本」とした。また、寝技における抑込の時間は、20秒で「一本」、15秒以上で「技有」、10秒以上で「有効」とした。

原沢久喜（推薦・百五銀行）は一時、オーバートレーニング症候群で戦線離脱を余儀なくされた時期があった。昨年、全日本選手権を制したあと「オリンピックまで柔道に専念するため」と所属していた日本中央競馬会を辞めた。今年4月から新たな所属が百五銀行（三重県）に決まり、「あとは結果を出すだけ」と今大会に臨んだ。原沢は、2回戦で澤建志郎（北信越・石川県警）を、3

回戦で前田宗哉（関東・自衛隊体育学校）をそれぞれ3分以内に内股で仕留め、連覇へ向け順調な滑り出しを見せた。

太田彪雅（東京・東海大）は昨年の全日本学生大会では団体・個人の二冠達成やグランドスラム・エカテリンブルグで優勝と、力をつけてきている。太田は初戦となる2回戦で石内裕貴（九州・旭化成）を釣腰で有効を、3回戦ではグランドスラム・デュッセルドルフの優勝で勢いに乗る飯田健太郎（東京・国士館大）から大内返で一本を奪い、ともにGSで勝利して、準々決勝に駒を進めた。

■Bブロック

今大会最年長33歳の加藤博剛（関東・千葉県警）が登場。初戦の2回戦は140kgの上林山裕馬（九州・福岡県警）を延長の末、小外刈で一本勝。続く3回戦は、激戦区の東京地区予選を勝ち抜き、史上最年少17歳1カ月で全日本選手権の舞台に立った斉藤立（東京・国士館高）との対戦。加藤は小内巻込で有効を奪った後、巧みな寝技で斉藤を後袈裟固で抑え込んで一本勝。ベテランらしい熟練



Bブロック・3回戦＝影浦心（右）対垣田崇兵



Bブロック・3回戦＝加藤博剛（右）対斉藤立



Cブロック・3回戦=ウルフアロン(上)対上田轄麻



Cブロック・3回戦=王子谷剛志(奥)対一色勇輝

の技で観客を魅了し、準々決勝進出を果たす。

100kg超級で世界ランキング日本人トップの影浦心(かげうらこころ)(推薦・日本中央競馬会)は、初戦で影野裕和(かげのひろかず)(四国・愛媛県警)を終了間際に浮落での技有で制すと、続く3回戦では昨年の全日本実業団個人100kg級優勝の垣田恭兵(かきだこうへい)(九州・旭化成)を払巻込で退け、順当に準々決勝進出を決めた。

■Cブロック

王子谷剛志(おうじたにこうし)(推薦・旭化成)は、この大会では平成26年からの5年間で優勝3回、準優勝1回、3位1回と安定した成績を残している。今大会はまず、2回戦で数々の高校タイトルを獲得してきた中野寛太(なかのひろた)(近畿・天理大)と対戦。中野に延長まで粘られるも、最後は小内刈で一本勝。3回戦では新社会人の一色勇輝(いしよくあき)(東京・日本中央競馬会)を試合時間残り30秒に背負投で技有を奪い、苦しみながらも勝ち上がった。

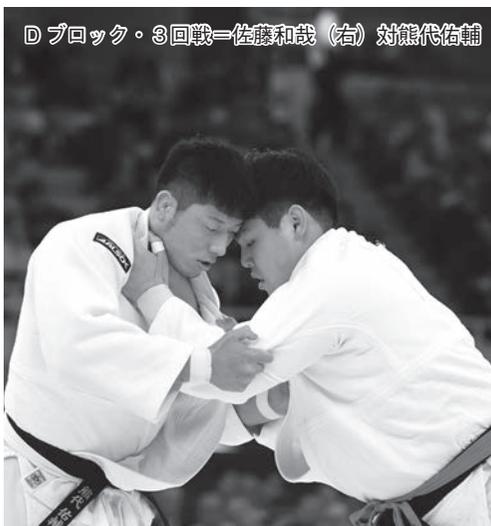
世界選手権東京大会100kg級代表を既に決めているウルフアロン(関東・了徳寺学園)は、2回戦から登場。新添悠司(にいぞうゆうし)(近畿・大阪府警)に対し、1分18秒に内股で一本勝。

続く3回戦では粘る上田轄麻(うえだかつま)(東京・日本製鉄)に対し、積極的な攻めを見せ、GS1分49秒に支釣込足で上田を一気に回転させ、一本勝。8強入りを果たす。

■Dブロック

昨年3位で新社会人として出場した小川雄勢(おがわゆうせい)(東京・パーク24)は、2回戦で古居頌悟(ふるいしょうご)(東海・愛知県警)に対し、不十分な組手ながら終始攻め続け、指導3により勝利を収める。続く3回戦でも尾原琢仁(おはらたくひと)(九州・旭化成)に攻めあぐねる場面があったが、小川はGSに入り主導権を握ると尾原を指導3に追い込んで、辛くも勝利し、準々決勝に進出。

東京予選を制して、勝ち上がってきた佐藤和哉(さとうわさや)(東京・日本製鉄)と昨年の講道館杯100kg級優勝の熊代佑輔(くましろゆうすけ)(東京・ALSOK)の8強入りかけた試合は、佐藤は釣手を下から、熊代は上から持ち、互いに攻撃の機会を窺う。互いに指導2まで累積し、本戦4分が終了。延長1分43秒、膠着状態が続くかに思えた次の瞬間、両者同時に3つ目の指導が宣告される。大会史上初となる両者反則負による勝者なしとなった。



Dブロック・3回戦=佐藤和哉(右)対熊代佑輔



Dブロック・3回戦=小川雄勢(左)対尾原琢仁



準々決勝①＝太田彪雅対原沢久喜
太田（右）は前回王者・原沢から技有を奪って勝利した

準々決勝①

太田彪雅 ○袖釣込腰 原沢久喜

原沢、太田ともに右組の相四つ。

ここまで落ち着いた試合運びで、完璧な勝ち上がりを見せる原沢。身長で上回る原沢は太田の奥襟を掴むため、前に出て圧を掛けていく。1分10秒、太田は原沢が前に出てくるところに、意表を突く袖釣込腰を仕

掛け、一瞬原沢の体が崩れる。ポイントにはならなかったが会場がどよめく。しかし原沢は落ち着いていった。しつかりと自分の組手を作り太田を徐々に追い詰める。太田は原沢の圧力に防戦一方状態。不十分な技では原沢の牙城は崩せない。思い通りに攻めることができない太田は2つ目の指導を受ける。

GSに入ると、原沢は一段ギアをあげ、大外刈を軸に内股を織り交ぜ、太田を攻め立てる。

追い詰められた太田が攻勢に出る。これに対し、原沢の本能が危険を察知したのか思わず「首抜き」の反則をしてしまい指導を受ける。太田は徐々に原沢の釣手を下げ、自分の組手を作り、流れを引き寄せ始める。ここで原沢にも2つ目の指導が与えられる。延長3分が過ぎてから原沢の組手が雑になり始める。

GS 4分40秒、原沢が太田の背中を持つとと中途半端に腕を伸ばしたところ、太田が変則の袖釣込腰で技有を奪い、勝負あり。太田は自身初のベスト4進出を決めた。この瞬間、原沢の連覇の夢が途絶えた。

準々決勝②

加藤博剛 ○支釣込足 影浦心

加藤と影浦ともに左組の相四つ。勝負は開始16秒、一瞬で決まった。加藤が釣手を掴んだ瞬間だった。電光石火の支釣込足で影浦を畳に沈めた。仕掛けた加藤自身も驚きの表情を見せ、投げられた影浦は呆然と立ち尽くし、何が起きたかわからないまま、試合場を後にした。



準々決勝②＝加藤博剛（上）対影浦心



はらさわひさよし
原沢久喜
(百五銀行)
準々決勝敗退

「連覇を目指していましたが、準々決勝では終始相手のペースで、自分の柔道が全くできませんでした。もつと戦い方を工夫できたかなと思います。

我慢強く戦うことができたようになってきましたが、最後は隙をつかれてしまいました。選抜体重別選手権まではコンディションも良かったのですが……。

世界選手権までは少し時間があります。国際試合は試合のスピードや審判のやり方も変わってくるので、しっかりと準備し、対応できるようにしたいと思います」



こころ心
かげうら影浦
(日本中央競馬会)
準々決勝敗退

「試合が終わったばかりで気持ちの整理ができていません。実力はつ

準々決勝③

ウルフアロン ○内股 王子谷剛志

一昨年の決勝戦で死闘を演じた二人が再び相見えた。ウルフは王子谷より一つ下の階級ながら力負けすることなく圧を掛ける。試合序盤から場外際に追い込まれる場面が多い王子谷。試合開始2分24秒で王子谷が



準々決勝③=ウルフ アロン対王子谷剛志
ウルフ（左）は先輩・王子谷に対し、内股で一本勝を収める

ブロック（極端な防御姿勢）したと判定され、2つ目の指導を受ける。納得できない表情を浮かべる王子谷。ここから試合の流れは徐々にウルフに傾き始める。

追い詰められた王子谷がここで秘策を出す。右組の王子谷が左の大将を仕掛ける。ウルフは一瞬戸惑うもこれをしっかりと堪える。試合終

了直前にウルフが内股のフイイントから小外掛けを繰り出す。王子谷がこれを内股に切り返したところで本戦終了。勝負の行方はGSへ。

延長に入り、両者激しい技の攻防を展開。一つ一つの技の応酬に会場のボルテージが上がる。延長56秒、ウルフの大内刈で王子谷の体が大きく崩れるもポイントにはならない。

反対に王子谷は、ウルフが内股に入ってきたところを谷落で切り返す。

この技に主審がビデオ検証を要求する。しかし上半身のキメが甘く王子谷にポイントは入らず試合続行。疲れの見た王子谷にウルフは攻撃の手を緩めない。延長2分14秒、最後はウルフが帯を持って捻りながらの内股で王子谷を投げ切り一本勝。東海大学の先輩・後輩対決は後輩のウルフが制した。会場からは両者に惜しめない拍手が送られた。

準々決勝④

小川雄勢 ○不戦勝

3回戦で佐藤と熊代が両者反則負けを宣告されたため、小川の準々決勝は不戦勝となった。小川は体力を温存したまま、準決勝へ進んだ。

いてきていると思いますが、結果が出ていないのでどうしたらいいか、これからしっかりと考えていきたいと思っています。

東京オリンピックに出場して、リネールを絶対に倒したいという気持ちに変わりはないので、諦めずに頑張っていきたいです」



おう じ たに たけ し
王子谷剛志
(旭化成)
準々決勝敗退

「相手（ウルフ）が強かった。それだけです。一昨年の決勝戦以来の対戦で、練習でも組み合わず過ぎてきました。非常に組手を切る力が付いていて驚きました。今回は2つの秘策を持ってきました。密着してからの小外刈と逆の大外刈です。結果は2つとも防がれてしまいました。改めて柔道は奥が深いと感じさせられました。負けて言うことではないですが、今日は自分の思い通りの柔道ができたことで楽しく試合ができました。

これからのことは関係者の方と相談していきたいと思っています」

準決勝戦①

加藤博剛 ○巴投 太田彪雅

太田が右組、加藤が左組のケンカ四つ。試合序盤から太田は早く捕まえて技を出したいところ。対する加藤は巴投を軸に攻撃を組み立てる。太田が積極的の前に出るも加藤が絶妙なタイミングで巴投で太田の技の出端を抑える。太田は組み勝つことができても効果的な技を出すことができずに指導を受ける。加藤は再三の巴投で太田を宙に浮かせる。その

度に会場から沸き起こる歓声。加藤は完全に試合の主導権を握った。

その後、太田をアクシデントが襲う。左膝に違和感を覚え、思うように動けない太田。試合開始2分39秒で太田に2つ目の指導が与えられる。苦悶の表情を浮かべる太田に対し、加藤は執拗に巴投で攻める。

残り時間24秒、加藤のこだわり続けた巴投が太田を捉える。太田の体は綺麗に宙を舞い、加藤が一本勝を収める。加藤は優勝した平成24年以来的決勝進出を果たした。



準決勝①・加藤博剛対太田彪雅＝加藤（右）のこだわり続けた巴投が太田を捉える

準決勝戦②

ウルフアロン ○大内刈 小川雄勢

両者左組の相四つ。ウルフは準々決勝で延長戦の末、王子谷戦を乗り越えて勝ち上がった。一方の小川は、準々決勝を不戦勝で終え、体力に不安がない状態で準決勝の畳に上がった。

ウルフは試合開始直後から前に出ながら圧を掛けていく。ウルフは自分より背の高い小川に対し奥襟を掴み、足技から小川を攻める。ウルフの奥襟を明らかに嫌っている小川は



準決勝②＝ウルフアロン対小川雄勢
ウルフ（下）が大内刈で小川に一本勝で決勝進出を決めた

場外際まで追い込まれる。ウルフは小川が押し返してくるところを小外刈や大内刈で合わせるもポイントにはならず。その後もウルフは動きながら連続で技を繰り出す。開始2分17秒、ウルフが大内刈で小川を押し込んであわやポイントかと思われたが、これもノースコアの判定。

ウルフは小川の強引な支釣込足に對し、連続の小外刈で尻餅をつかせる。さらに技を掛け続けたウルフは、残り32秒のところで仕掛けた大内刈がしっかりと小川の右足を捉えて、一本勝で決勝に駒を進めた。



決勝＝ウルフ アロン対加藤博剛
ウルフ（上）は加藤から支釣込足で技有を奪って初優勝を決めた

決勝戦

ウルフアロン ○支釣込足 加藤博剛
100 kg超級以外の選手同士が決勝戦を戦うのは平成23年の鈴木桂治（現男子日本代表コーチ）と穴井隆将（現天理大学職）以来の8年ぶり。

勝つのは7年ぶり2度目の優勝を目指す最年長出場33歳の加藤か。対するウルフは4度目の挑戦で初優勝の栄冠を手に入れることができるか。会場中の注目を集めた平成最後の頂上決戦。両者は落ち着いた表情で決勝の畳に上がる。

序盤は静かな立ち上がりとなった。膠着した試合展開に1分20秒で両者に指導が与えられる。先に主導権を握りたいウルフだったが、加藤は徹底した組手争いと寝技でウルフの思い通りにはさせない。ウルフは加藤に合わせることなく自分で釣手を取りに行く。前に出てくるとうまく捌き、寝技を狙う加藤。

3分が過ぎ、先に動いたのはウルフ。得意のパワー柔道で加藤の頭を下げる。ウルフは優位な組手を作るも決めきれない。苦しい状況の加藤。静まり返る場内。観客が固唾を

飲んで見守る中、あつという間に4分が経過し、本戦が終了。

延長に入り、いきなり加藤が勝負に出る。引手が取れない加藤は右手でウルフの脇腹のあたりを掴み、巴投を仕掛ける。ウルフの体が浮き上がり、これで一気に会場が沸く。

これを機にウルフがギアを上げ、反撃に出る。年齢差10歳という差が、スタミナの差として現れ始めると、徐々にウルフペースに。

延長1分29秒、加藤の頭を下げ、組手十分になったウルフが繰り出した支釣込足で、加藤の体が回転する。ウルフは逃れようとする加藤をしつかりコントロールし、背中から畳に付け技有を奪い、初優勝を決めた。技有の宣告の瞬間、ウルフは思わず右手を突き上げ、喜びを爆発。ウルフは平成最後の全日本選手権覇者となった。



三冠 柔道家を目指して

全日本選手権
世界選手権
オリンピック

◎優勝Ⅱウルフ アロン選手（了徳寺学園職）



普段、あまり感情を表に出さないウルフ選手が、試合終了後、目に光るものを見せた。

「ずっと目標にしていた大会で優勝できてうれしいです。一昨年は2位、昨年は半月板の故障で出場できませんでした。今回優勝が決まった瞬間、やってきた対策や努力、練習がすべて実った瞬間だったので感極まっています。試合中も会場の歓声や応援が力になりました」

最高の舞台で最高の結果を出したウルフ選手。大会前から優勝への思いは強かった。

「この舞台に立てることへの感謝と喜びを感じました。しかし出るだけではなく優勝しなかったという気持ち

ちが強かったです。無差別の大会で日本で一番強いと証明できる舞台はここしかないのですね」

今日は初戦から思い通りの試合展開で一気に頂点まで駆け上がった。

100kg級の選手が体重無差別の全日本選手権に出場することにどんな意味があったのか。

「減量がなかった分、十二分に自分の力を発揮できたと思います。本来の100kg級でも、この力を出せるようにしていきたいです。」

前から意識していたことですが、100kg級の外国人選手を相手にするには、国内の100kg超級の選手に負けてはいられないという気持ちで試合に臨みました。100kg超級の日本人選手を100kg級の外国人に見立て、バランスを崩して投げることができ、手応えを感じました」

すでに世界選手権日本代表に内定していたのだから出場を回避することもできたはず。怪我のリスクなどを考えなかったのか。

「代表に選ばれていたのですが、世界選手権・オリンピックが行われる会場ということで今回の出場を決めました。緊張せずに自分のパフォーマンスを発揮できたので、今後の自信につながったと思います」

改めて加藤選手との決勝戦を振り返ってもらった。

「加藤選手攻略への生命線は『加藤選手の右手を自由にさせないこと』でした。そこからの巴投を警戒していました。長期戦になればベテランの選手なのでスタミナ面で（自分が）有利になると思っていました」

平成最後を最高の形で締めくくったウルフ選手は、これで全日本選手権、世界選手権を制し、柔道三冠に王手をかけたことになる。今年令和元年に早速、世界選手権、来年には東京オリンピックを迎える。今後の目標を聞いた。

「共に東京開催ということで、優勝して新時代に最高のスタートを切りたいです。東京オリンピックで優勝して三冠柔道家になりたいです」

新しい時代が幕を開け、歴史に名を刻むことはできるのか。ウルフ選手の手三冠柔道家への挑戦が始まる。



準優勝
かとうひろたか
加藤博剛
(千葉県警)

「若い選手が多い中、最年長の自分がこんな結果を出しているのかと……なんだか申し訳ないですね（笑）」

試合の内容的には自分のいいところは出せたと思います。若い人々と戦えることが一番嬉しいです。ウルフ選手は本当に若くて元気だなと思いました。

今回披露できなかった技もあるのですが、今後も大会に出場し続け、最出場を狙いつつ、試合では面白い試合を見せていきたいと思っています」



第3位
おがわゆうせい
小川雄勢
(パーク24)

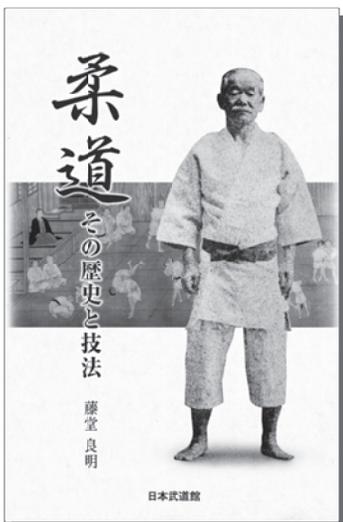
「準決勝が一番の山場だと思っていましたが、越えることができなかったのは自分の力不足です。東京オリンピックまで1年。悪いところの改善だけでなく、不足しているものを補っていくしかありません」

好評発売中!

柔道 その歴史と技法

筑波大学体育系教授 藤堂 良明 著

「原点に帰る」には、「原点を知る」必要がある。



四六判・上製・330頁・本体2,400円+税

柔道の歴史を振り返りつつ、その技法が、どのように形作られてきたのかを、丁寧に解説しています。



武道の稽古は、技を通して精神を磨き、やがて社会のためになるという教育の道でもあった。時代は移り変われども、日本の伝統に培われた「武道としての柔道」を見失わないでいただきたいと願うものである。(本書「あとがき」より抜粋)

目次

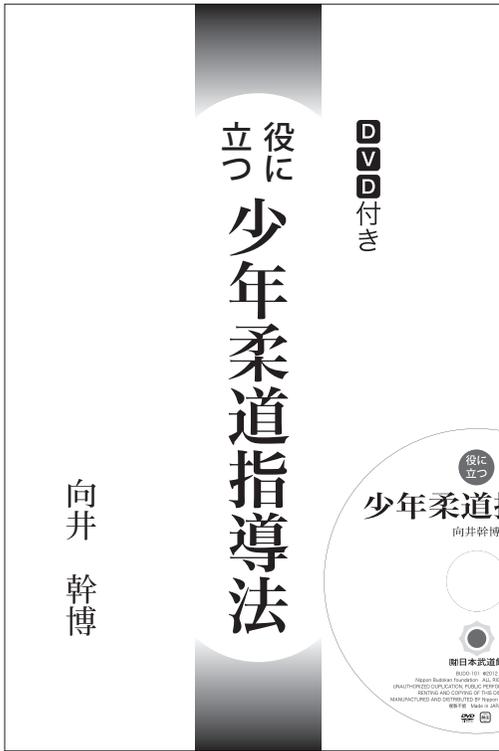
<p>第一章 組討ちの起こりと技法 体術の起こりと技法 組討ちの体系化と技法</p>	<p>第三章 講道館柔道の歴史と技法 講道館柔道の創設と技法 嘉納治五郎の乱取開発 講道館柔道の行事と整備 警視庁武術大会の勝利と技法 学校体操への柔道導入の試み 学校における柔道普及の実態 高専柔道の起こりと技法 嘉納治五郎の他武道への接近 精力善用国民体育の創案と技法 全日本柔道選手権大会の開催と技法</p>	<p>第四章 第二次世界大戦後の柔道復活と技法 第二次大戦中の柔道界と技法 第二次大戦後の柔道禁止と復活 格技柔道から武道柔道へ 女子柔道の競技化と技法</p>
<p>第二章 柔術諸流派の歴史と技法 竹内流腰廻 関口新心流柔術 起倒流柔術 起倒流柔道 直信流柔道 真之神道流柔術 天神真楊流柔術</p>	<p>第五章 柔道技法の変遷と国際化への課題 柔道技法の変遷と特徴 柔道の国際的普及と発展 段位制度の国際比較 柔道の国際化と課題</p>	

<p>編集・発行 日本武道館 〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3 ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp</p>	<p>お問い合わせ・ご注文は 日本武道館出版広報課 までどうぞ!</p>	<p>TEL03(3216)5147 FAX03(3216)5158</p>
--	--	---

好評発売中！

公益財団法人講道館道場指導部課長
向井幹博
(むかい みきひろ) 著

役に立つ
少年柔道指導法



A5判・並製・DVD付・414頁・本体2400円十税

収録時間170分を超える
解説DVD付属！

少年柔道指導の現場で役に立つ好評連載を単行本化。付録のDVDには、写真では伝わりにくかった部分を映像で紹介。
また、少年柔道が抱える様々な問題点を、講道館所蔵の柔道文献から、解決の糸口を探っていく。

- 〈目次〉
- 第1部 解説編
 - 第一章 少年柔道は柔道指導の原点
 - 第二章 基本動作の指導
 - 第三章 技の指導
 - 第四章 教育の中の柔道
 - 第五章 指導の工夫
 - 第六章 少年規定の変遷と問題点
 - 第七章 柔道の安全指導
 - 第八章 東日本大震災への講道館の対応
 - 第2部 実技編
 - 第九章 少年柔道の未来のために
 - 第一章 礼法の指導
 - 第二章 受け身の指導
 - 第三章 基本動作の指導
 - 第四章 トレーニング法の指導
 - 第五章 柔道の練習法
 - 第六章 投技の指導
 - 第七章 固技の指導

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ<http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

第34回皇后盃全日本女子柔道選手権大会

素根輝が2連覇達成！





決勝＝素根輝（左）対朝比奈沙羅



開会式

第34回皇后盃全日本女子柔道選手権大会（主催Ⅱ講道館、全日本柔道連盟）が4月21日、横浜文化体育館で推薦選手3名と全国から選抜された34名の選手が参集して行われた。

試合は国際柔道連盟試合審判規定（2018～2020）および全日本選手権大会申合せ事項で行われ、試合時間は4分、制限時間内に決着がつかない場合はゴールデンスコア（以下GS）による時間無制限の延長戦を行った。

決勝は、素根輝（環太平洋大）と朝比奈沙羅（パーク24）の対戦となり、試合時間9分超の末に朝比奈への指導3によって、素根が勝利。連覇は塚田真希以来9年ぶり、10代での連覇は阿武教子以来29年ぶりの達成となる。

また、今大会は、日本武道館で開催される世界柔道選手権東京大会（8月25日～9月1日）の女子78kg超級の最終選考を兼ねている。大会終了後に行われた全日本柔道連盟強化委員会での話し合いの結果、素根輝と朝比奈沙羅が日本代表に決定した。



3回戦＝稲森（上）が桑形に横四方固を決める



3回戦＝抑込に入ろうとする富田（上）

■ 1回戦～3回戦

▽予選Aブロック

昨年優勝の素根輝（推薦・環太平洋大）が2回戦から登場。2回戦は小林幸奈（近畿・龍谷大）に指導3が与えられ、勝利。続く3回戦は試合開始30秒、佐々木ちえ（東京・東京学芸大）に体落を掛けて技有の判定となる。その30秒後、小外掛で技有を奪い、合技一本で準々決勝へ。

また、2016年の女王である山部佳苗（近畿・ミキハウス）がペテランの意地を見せる。2回戦では古賀早也香（中国・帝京大）に払腰で一本勝。続く3回戦では桑田晴乃（関東・筑波大）に内股から横四方固で



2回戦＝果敢に試合に挑む中村（左）

合技一本を決め、準々決勝へ進んだ。

▽予選Bブロック

昨年3位の井上舞子（関東・警視庁）は2回戦で渡辺心実（北信越・金沢学院大）を内股と袈裟固の合技一本で降す。3回戦は、佐藤陽子（東海・東海大）に試合開始1分30秒で内股を仕掛け、有効を奪う。試合はそのまま終了となり、井上が昨年につき、準々決勝へ。

昨年のグランドスラム大阪で3位の実績を持つ稲森奈見（東京・三井住友海上）は2回戦で寺田宇多菜（関東・桐蔭横浜大）に払巻込で一本勝。続く3回戦は本大会最年少出場となる桑形萌花（近畿・夙川高）に横四方固を決め、一本勝で準々決勝進出を果たした。

▽予選Cブロック

昨年2位の富田若春（推薦・コマツ）は、2回戦で黒木七都美（近畿・龍谷大）を横四方固で抑え込み、一本勝。3回戦では佐俣優依（関東・VILLAGES）に小外刈から横四方固で合技一本を決め、2年連続で準々決勝へ進んだ。

昨年世界ジュニアで優勝の児玉ひかる（九州・東海大）と本大会最年

長でリオデジャネイロオリンピック52kg級銅メダリストの中村美里（東京・三井住友海上）が2回戦で対

戦。中村は50kgの体重差を感じさせない粘りを見せ、試合はGSへ。その後も中村は幾度も攻撃を仕掛けようとする。しかし、試合時間6分13秒、児玉が中村に払腰を仕掛け、有効で勝利。中村はここで敗退となったが、果敢に試合へ挑む姿に会場から大きな拍手が送られた。続く3回戦で、児玉は菅原歩巴（東北・久慈東高校教員）に内股で有効を奪い、勝利。初の準々決勝進出を決めた。

▽予選Dブロック

2018年世界選手権女王の朝比奈沙羅（推薦・パーク24）が登場。2回戦で山本沙羅（北信越・福井県スポーツ協会）にGS開始1分4秒に仕掛けた払巻込が有効の判定となり、勝利。3回戦では米川明穂（東海・藤枝順心高）と対戦。試合はGSに突入してから、朝比奈が米川に対し、足技で積極的に攻める。そして試合開始から5分48秒、米川に指導3が与えられ、試合終了。朝比奈が準々決勝へ駒を進める。

昨年の選抜体重別で優勝している



準々決勝①=素根(左)対山部



準々決勝④=朝比奈(上)が高山に支釣込足で勝利

高山莉加(東京三井住友海上)は、2回戦で2018年講道館杯優勝の秋場麻優(中国・環太平洋大)にGSの末、内股による有効で退け、勝利。3回戦では井上愛美(九州・JR九州)に巴投から上四方固で抑え込み、合技一本。準々決勝戦へ。

■準々決勝①

素根 輝 ○大内刈 山部佳苗

現・女王である素根と旧・女王である山部の対戦。素根が左組み、山部が右組みのケンカ四つとなる。試合開始から2分18秒、引手を取らな

られる。さらに、開始から3分17秒には消極的と判断された山部に指導2が、開始から3分46秒には素根が場外へ出て指導2が与えられ、そのままGSへ。

両者、今大会初のGS戦へ突入する。GSから2分20秒、山部は素根に対し、内股を仕掛けるが、決まらず。GSから3分15秒、素根が大内刈を仕掛け、山部がこらえようとす

■準々決勝②

稲森奈見 ○小外刈 井上舞子

稲森が右組み、井上が左組みのケンカ四つ。井上は得意の足技で稲森を追い込む。試合開始から2分40秒、稲森が消極的と判断され、指導1が宣告される。その後は両者決め手を欠き、GSへ突入。

GS開始から39秒、井上が前に出たところを稲森が小外刈で返し、有効。稲森が初の準決勝へ勝ち進んだ。

■準々決勝③

富田若春 ○内股透かし 児玉ひかる

富田が右組み、児玉が左組みでケ

ンカ四つ。序盤から富田が児玉を引き寄せ、圧力をかける。そして開始からわずか37秒、児玉が内股を仕掛けてきたところに富田が上手く躲して内股透かしで一本勝。富田はここまでオール一本勝で準決勝へ。

■準々決勝④

朝比奈沙羅 ○支釣込足 高山莉加

共に右組の相四つになる。序盤、朝比奈は高山の奥襟を掴み、試合を優位に進める。巴投を仕掛けようとした高山へ朝比奈は寝技で勝負に出るが左足が抜けず、抑込にならず。その後、高山は果敢に足技を仕掛け、先に朝比奈に指導1がつく。

一進一退の攻防はそのまま、GSへもつれこむ。再び高山に巴投を掛けられた朝比奈は抑込に入ろうとするが、序盤同様、片足が抜けないまま、「待て」。この後からペースが落ちた朝比奈は技を仕掛けないと判断され、GS開始から1分24秒、2つ目の指導が宣告される。しかし、その直後、朝比奈が高山の奥襟を上手く掴み、支釣込足を仕掛け、有効で勝利する。朝比奈が3年連続の準決勝進出を決めた。

■準決勝①

素根 輝 ○大内刈 稲森奈見

ケンカ四つ。序盤から互いに引手を取らせない展開となり、開始から1分、両者に指導1が与えられる。両者出方を探る中、先に勝負に出たのは稲森。試合開始から2分31秒、稲森が得意とする寝技に入ろうとするが、うまく回転させることができず、有効にならない。対する素根は攻撃に出るも引手をコントロールされ、思い通りの柔道をさせてもらえない。そして、試合開始から3分44秒、素根に指導2が宣告される。

試合はGSに突入。GS開始56秒、今まで消極的だった素根が勝負を仕掛ける。十分な組手になった素根は、大内刈で一気に稲森を押し込み、有効を奪って勝利した。素根は大会連覇をかけて決勝へ。



準決勝①=素根(左)が稲森に大内刈を仕掛ける

■準決勝②

朝比奈沙羅 ○大外巻込 富田若春

序盤から朝比奈は右手で奥襟を握り、優勢な姿勢に見えたが、なかなか技を仕掛けることができない。対する富田も朝比奈に引手を取られ、攻撃の機会を見出せない。そして、試合開始1分12秒、消極的な両者へ指導1が言い渡される。しかしその後、朝比奈が勝負に出る。試合開始から2分5秒、富田の引手を捉えた朝比奈が豪快に大外巻込を決め、一本。朝比奈は昨年準優勝の富田を降し、復活優勝に向け、3年ぶりの決勝進出を果たした。



準決勝②=朝比奈(右)が富田に大外巻込を決める



決勝戦＝素根と朝比奈が激しい組手争いを展開した



GSに入り、攻めの姿勢を見せる素根（左）

■決勝戦

素根 輝 ○反則負 朝比奈沙羅

これまで両者の対決は素根が4勝3敗で、今回は8度目の対戦となる。

素根が左組み、朝比奈が右組みのケンカ四つとなる。他の大会を通し、互いの手の内が分かっているため、序盤から、激しい組手争いが展開される。

試合開始1分52秒、両者に故意に組まないとして指導1が、その後、素根が袖口に指を入れ、指導2が言い渡される。両者、相手の動きを注視する中、先に勝負に出たのは朝比奈。朝比奈は素根の奥襟を掴み、距離を縮めて内股を仕掛けるも、素根が切り返し、技有にならず。これに対し素根も朝比奈へ巴投を仕掛けるが、投げ切れない。この時、組み合わないと判断され、朝比奈に指導2が言い渡される。本戦はそのまま終了し、GSへ。

GS1分、素根が徐々に攻撃のペースを上げる。GS4分20秒、素根は袖釣込腰を仕掛ける。朝比奈はバランスを崩すも腹ばいで逃れる。素根はすかさず寝技に入り、一度は抑え込むも朝比奈がこれをすり抜け、ポイントを与えない。しかし、素根はその後も諦めずに果敢に攻めの姿勢を見せ、GS開始から5分5秒、朝比奈へ指導3が宣告され、試合終了。素根が塚田真希以来9年ぶりの2連覇を達成した。

世界選手権へ、その先の東京五輪へ

◎素根輝選手（環太平洋大学1年）優勝インタビュ―



昨年、高校3年生で初優勝を飾った素根。大学生となった今年は喜びを見せた昨年のインタビュ―とは一変し、冷静に自分自身を振り返った。

「今年、東京で行われる世界選手権にどうしても出場したかったので、4月の選抜体重別とこの皇后盃に賭けていました。両方優勝することができて嬉しいです。今年の皇后盃は、相手が自分の担ぎ技を警戒して、なかなか技に入らせてもらえなかったので、前から技を掛けることができないなら相手を後ろから追い込む技を展開しました。また、周りの誰よりも練習してきたという気持ちを強く持つ

て勝負に挑みました」

今大会でも、同じ階級で争う朝比奈沙羅選手との戦いが注目された。選抜体重別までの両者の対戦成績は素根が4勝、朝比奈が3勝と素根がリード。しかも、素根はここまで朝比奈に4連勝した状態で皇后盃を迎え、今回見事5連勝を達成した。

「お互い手の内を知っているので、長い試合になるだろうと予想していました。先に指導を取られる場面もありましたが、その中で勝ち切ることもできてよかったです。試合の中ではなかなか引手を持たせてもらえないと感じていたので、持てるところでしっかりと持って仕掛けていこうと気持ちを切り替えて挑みました。また、キツイのはお互いなので、何があっても勝つという強い気持ちを持って戦いました。今回も、（朝比奈選手と）決勝で直接対決をして、再度勝つという目標があったので、達成することができ、非常に嬉しいで

す」

また今年、環太平洋大学1年生となり、練習環境が変わったことよって、どのような心境の変化があったのだろうか。

「IPU（環太平洋大学）で練習する機会は入学したばかりなので少なかったですが、古賀稔彦監督にしっかりとアドバイスをいただきました。また、今回の試合前も気持ちを上げる言葉をかけていただき、頑張ることができました」

昨年は国際大会の実績が不十分で、世界選手権代表に選ばれなかった素根。この1年で国際大会への出場や選抜体重別、皇后盃での優勝で、今年の世界選手権の代表の座を大きく引き寄せた。

「選んでいただけたら世界選手権で優勝できるようにしっかりと練習し、努力して結果を出したいと思っています。そして、結果を残すためには技や組手で課題がたくさんあるので、克服していきます」

世界選手権への思いを述べた素根。成長を遂げる女王は東京オリンピックへまた一歩、道を進めた。

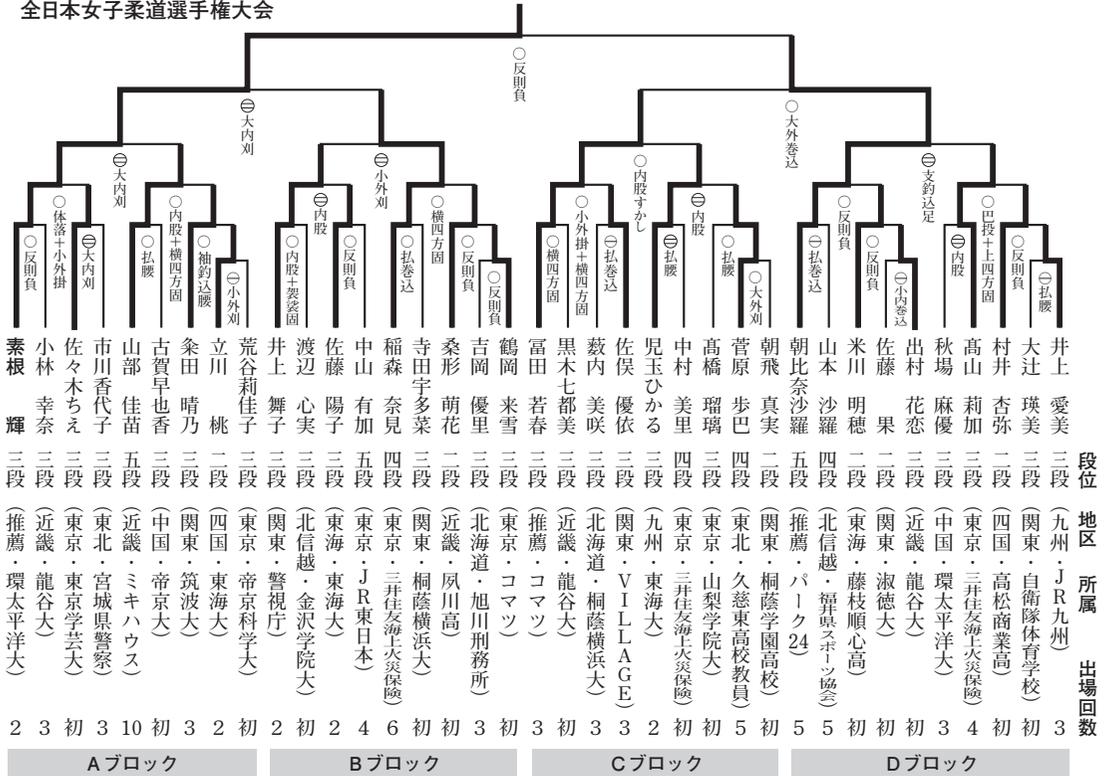
◎準優勝II朝比奈沙羅選手（パーク24）



「練習する時間を増やし、選抜が終わってからの2週間は死ぬ気でやっていたので、それが結果にならなくて残念です。当たって碎けるじゃダメなんで、当たられても碎けない、当たっても碎けないという芯の強さを身に付けなければいけないと思いました。この大会では、初戦からダメな試合が続き、練習が無駄に終わったと感じています。素根選手と戦ったことや試合に負けたということより、自分の力を出し切る場だと思っていたのに、出し切ることができず、本当に悔しいという思いが強くなります。それと同時に、自分にはまだ伸び代があるということも感じる事ができました。今後、自分にとつてのオリンピックは2020年の東京しかないと思っていますので、これからは必死に努力をし、代表に選ばれるように頑張りたいと思います」

第34回皇后盃
全日本女子柔道選手権大会

優勝 素根 輝



◆2019世界柔道選手権東京大会の女子選手が決定

◆2019世界柔道選手権東京大会の女子選手が決定
 今大会は世界柔道選手権大会（2019年8月25日～9月1日）の8日間、東京・日本武道館で開催の78kg超級の日本代表最終選考会を兼ねており、試合終了後には全日本柔道連盟強化委員会が開催された。その後、記者会見が行われ、全階級の女子日本代表選手が発表された。

▽世界選手権における全階級の女子日本代表が出揃ったことについて金野…まずは大会に出場してくださった全ての選手に感謝しております。代表の選手には今後も結果を残していただき、来年のオリンピックへ繋げていただきたいです。

- 世界柔道選手権東京大会出場選手
- ◇48kg級 渡名喜風南
- ◇52kg級 阿部 詩
- 志々目 愛

▽皇后盃の総括
 金野…実力のある2人が決勝に勝ち上がったと思います。今後は2人とも課題を克服して、外国人の強豪選手たちと戦える力をつけ、世界選手権に挑んでいただきたいです。

- ◇57kg級 芳田 司
- ◇63kg級 田代 未来
- ◇70kg級 新井 千鶴
- ◇78kg級 濱田 尚里
- ◇78kg超級 朝比奈沙羅
- 素根 輝

増地…両者とも力を出し切った素晴らしい試合でした。しかし、大会では、国際ルールで「指導」になる部分も見受けられたので、改善する必要があると思います。

- ◇団体57kg級 玉置 桃
- ◇団体70kg級 大野 陽子

記者会見では金野潤全日本柔道連盟強化委員長と増地克之全日本代表監督が質問に答えた。



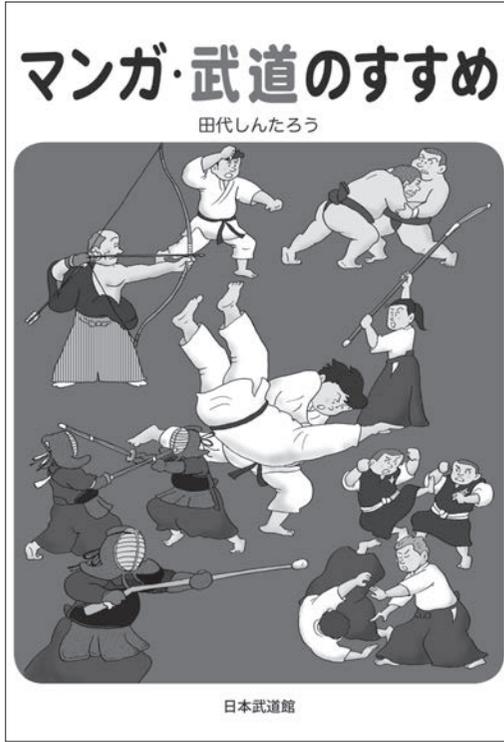
好評発売中！

漫画家・別府大学客員教授

田代しんたろう 著

マンガ・武道のすすめ

B5判・並製・236頁・本体1000円＋税



月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化！

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。

大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。

〈目次〉

序章 武道のすすめ

松永光(日本武道館)／高村正彦(武道議員連盟)／有松育子(文部科学省)

第1章 いざ！ 武道の世界へ

第2章 柔道のすすめ

大澤慶己／長谷川博之／腹巻宏一／吉村和郎／山内直人

第3章 剣道のすすめ

森島健男／角正武／千田重光／井上茂明／小林知洋

第4章 弓道のすすめ

森永良雄／吉本清信／宇佐美義光／柴田猛／大和田正孝

第5章 相撲のすすめ

塔尾武夫／住吉和則／下村勝彦／安井和男

第6章 空手道のすすめ

金城裕／長谷川伸一／安里廣之／山本英雄／大石武士

第7章 合気道のすすめ

多田宏／磯山博／菅沼守人／珠玖仁

第8章 少林寺拳法のすすめ

合田清一／阿達美恵子／八巻哲／松浦哲也

第9章 なぎなたのすすめ

澤田花江／梶山武子／一川治子／左村美穂子／大津博美

第10章 銃剣道のすすめ

桑原正治／兼坂弘道／遠藤守／石川慎也／北村弘之

第11章 古武道のすすめ

竹内藤十郎(柔術)／笹森建美(剣術)／加藤伊三男(槍術)／小笠原清忠(馬術)

日本武道館の歴史

日本武道館の歴史

編集・発行 公益財団法人日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本



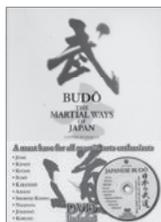
今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



BUDŌ:

THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)



武道

子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



大先輩に聞く

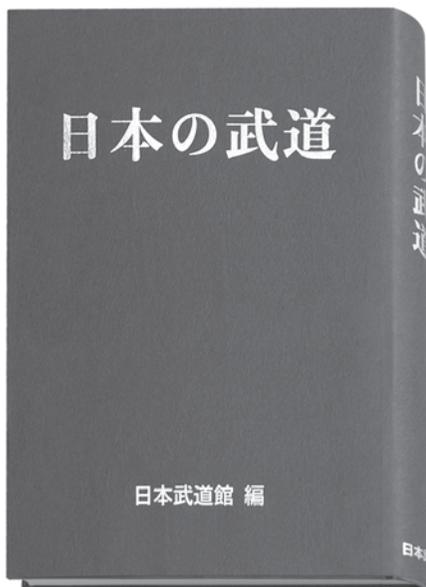
月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)

一千数百年の歴史を有する
武道の全容をこの一冊に集大成!!
武道小百科事典としても役立つ
充実した巻末の資料編!!

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・
少林寺拳法なびなた銃剣道をはじめ、
各武道統括団体の全面協力によって完成!!



日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)

日本の武道

日本の武道のすべてを網羅した武道関係者必携の書



日本武道館 編

全日本弓道連盟が創立70周年を迎える



記念祝賀会では大恵俊一郎全日本弓道連盟副会長が乾杯を行った

350名が集い、盛大に記念式典・祝賀会



記念式典で感謝状を受け取る
吉川英夫日本武道館事務次長（右）

公益財団法人全日本弓道連盟は令和元年5月に創立70周年を迎えた。その節目を祝して、5月2日に記念式典・記念祝賀会がウエスティン都ホテル京都で、関係者・来賓を含めて記念式典には330名、記念祝賀会には350名が参加し、盛大に開催された。

なお記念祝賀会には、国際弓道連盟名誉総裁を務める高円宮妃殿下がご臨席された。

■記念式典

全日本弓道連盟創立70周年記念式典は、午後5時から始まった。

まず、中野秀也全日本弓道連盟会長が「本日、本連盟創立70周年記念式典を開催できますことを大変嬉しく思います。戦後、GHQによる武道団体の解散を経て、先人たちの多大なご尽力により、昭和24年に本連盟は創立いたしました。その後、各

時代の様々な困難を乗り越え、全国各地の弓道を愛する方々、武道・スポーツ界の支えをいただきながら創立70周年という節目を迎えることができました。関係者の皆様方に深く感謝申し上げます」と式辞を述べた。

次に弓道の普及・振興に支援・尽力した日本武道館、明治神宮、妙法院門跡をはじめ15団体（うち9団体が出席）、各都道府県弓道連盟（代表・京都府弓道連盟）に感謝状が贈呈された。

続いて、連盟の発展に貢献した個人・団体を功労者・功労団体として表彰し、功労者代表の石川武夫氏、功労団体代表の弓馬術礼法小笠原教場に表彰状が贈られた。

■記念祝賀会

記念式典に引き続き、午後6時より記念祝賀会が行われた。



記念祝賀会での鏡開き



記念祝賀会には
高円宮妃殿下がご臨席された

まずはじめに、国際弓道連盟名誉総裁を務める高円宮妃殿下が参加者による大きな拍手の中、ご入場。高円宮妃殿下は笑顔で会釈をされながらご着席された。

続いて、中野秀也全日本弓道連盟会長の開宴挨拶、杉谷義純妙法院門跡門主による来賓祝辞が行われた。

そして来賓紹介、祝電披露の後、壇上には3つの樽が用意され、鏡開きに移った。壇上には中野秀也全日本弓道連盟会長、川村隆史京都府文化スポーツ部理事、門川大作京都市長、宇田川哲哉明治神宮武道場至誠館館長、吉川英夫日本武道館事務次長をはじめ15名が登壇。連盟創立70周年を祝し、15名によってめでたく鏡が開かれた。

その後、参加者全員に枥酒が配られ、大恵俊一郎全日本弓道連盟副会長による乾杯で歓談となった。

参加者たちはこれまでの思い出話に花を咲かせたり、弓友との久しぶりの再会を楽しみながら、終始和やかな雰囲気では進んだ。

最後に窪田史郎全日本弓道連盟副会長が挨拶を行い、会は盛会裡に終了した。

●中野秀也会長に聞く 連盟の一層の発展のために

設立当初から、弓道の継承・普及・振興に取り組んできた全日本弓道連盟。平成18年の国際弓道連盟設立、平成22年の日本における第1回世界弓道大会開催など、弓道の国際的な普及も進んでいる。

これまでの70年を踏まえ、中野秀也全日本弓道連盟会長に今後に向けた活動の展望を聞いた。



「8年前に本連盟は公益財団法人となりました。役員には弓道経験のない有識者に加え、第三者的な意見をいただき、国民に広く理解される組織を目指しています。

弓道を知らない人に、どう弓道を伝えていくかが大きな課題です。『射品・射格』などの専門用



中野秀也
全日本弓道連盟会長

語を理解してもらうような取組を模索していく必要がありますね。

中学校武道必修化では、日本武道館との共催の全国指導者研修会は指導者の育成に大きな効果を発揮しています。指導者育成のほかにも、弓道場の整備や安全性の確保などの課題を早急に解決していかなければなりません。

海外でも、審査やセミナーを行っています。専門用語は現地の言葉で噛み砕きながら伝えていきます。元会長の故・嶋川信之先生は、亡くなられる直前まで『2020年の東京オリンピック・パラリンピックで武道デモンストラーションを行うように』とずっとおっしゃっていました。ぜひそういった機会を設けていただき、弓道を世界に広めていきたいですね。

弓道の最大の魅力は自分との戦いです。そういった弓道の魅力、面白さを弓道をやったことがない人に伝えていかなければなりません。弓道を習う一人一人が弓道の魅力を発信していくような、地道な努力が必要なのです」

弓の祭典、脈々と新しい時代に繋ぐ

第70回全日本弓道大会



範士の部・優秀者＝本多政和八段（愛知）

第70回全日本弓道大会は5月2・

3日の2日間にわたって、京都市勸業館「みやこめっせ」で行われた。

大会前日の5月1日には令和時代の幕が開いた。全日本弓道連盟創立当初から行われてきたこの大会も70回を数え、昭和から平成、そして新しい令和の時代へ。脈々と開催され続けてきた弓の祭典で日頃の稽古の成果を発揮しようと、全国から1800名を超える弓道家が集まった。

なお、大会2日目となる3日には高円宮妃殿下がご臨席され、熱心に演武を見守った。

結果は、範士の部では本多政和八段（愛知）が昨年に続き、過去最多となる5回目の優秀者に出出された。また、教士の部では原田友康七段（愛知）、錬士の部は花井聡五段（愛知）、有段者の部は岡本肇四段（広島）がそれぞれ初優勝を飾った。



3日には高円宮妃殿下がご臨席された



中野秀也範士八段による矢渡



会場となった京都市勧業館「みやこめっせ」



大会には多くの観客が集まった

5月2日

開会式は午前9時から行われた。

大会副会長の窪田史郎全日本弓道連盟副会長による開会宣言、国旗・全日本弓道連盟旗儀礼の後、大会会長の中野秀也全日本弓道連盟会長が「令和元年を迎え、記念すべき70回目となる本大会を開催できますことを大変嬉しく思います。この大会は技能の向上と弓友相互の親睦を図るために実施され続けてきた大会です。そして、本連盟の発展に寄与するとともに、後進に引き継いでいくべき責任ある大会でもあります。また、明日には高円宮妃殿下のご臨席を予定しております。出場される皆様方には、多年にわたり練磨された技と精神を遺憾なく発揮され、大会を盛り上げていただくことを期待いたします」と挨拶を行った。

その後、川村隆史京都府文化スポーツ部理事による京都府知事の祝辞代読、門川大作京都市長による祝辞、来賓紹介、競技上の注意と進み、開会式は終了した。

続いて、優秀地連表彰が行われ、国体や全国中学生大会などで好成绩

を残した栃木県が最優秀地連となつた。優秀賞には静岡県と東京都が選ばれた。

叙勲受章者、勇退された地連会長が表彰された後、会場を中央の射場に移して矢渡が行われた。射手は中野秀也範士八段、介添を杉田博、正法地清両範士八段が務めた。

◇ 大会は2日に範士の部、錬士の部、3日に有段者の部、教士の部が行われた(進行順)。

まず、各部とも一手1回の演武を行う。範士の部は演武で優秀者が1名選ばれる。その他の部では演武での皆中者が競技に進み、射詰競射によって争われた。なお、演武と射詰競射2射目までは36cm霰的で、射詰3射目以降は24cm星的で行われた。また、的中を逸した同位者は36cm霰的での遠近競射で順位を決定した。

▽範士の部(40名)

2日は範士の部から演武が始まった。弓界最高峰の演武を一目見ようと、会場には多くの観客が詰め掛けた。それに応えるように範士たちは、水を打ったような静寂の中、円

熟の行射を披露。選考の結果、優秀者には本多政和（愛知）が選ばれた。今回で2年連続5回目の優秀者となった本多だが、昨年は病気を患った。それだけに病を乗り越えて優秀者となった喜びは一人だっただけだ。

◎優秀者Ⅱ本多政和ほんた まさかず 範士八段（愛知）



「平成の最後と令和の最初に優秀者になれて感激だね。病気を患って弓力は弱くなったけど、周りに支えてもらいながら気力で引いているよ。病気になるって、一本一本弓を引くことに喜び、重みを感じることができたね。病気に負けちゃいかん、自分に負けちゃいかんね。」

若い頃は矢数をかけることが大切だと思うよ。ひたすら引くことで見えてくるものがあるんじゃないかな。そして、良いものを見て、良いイメージを作ること。そのイメージを持って、絶対に良くなるという信念を持ち続けること。ちよつと失敗したくらいでネガティブにならず、



錬士の部・優勝＝花井聡五段（愛知）



有段者の部・優勝＝岡本肇四段（広島）

ポジティブに取り組んでいくこと。僕だつてこの大会で5回優秀者になれたけど、失敗したことだらけだつたね。成功よりも失敗の方が何百倍も多いものだよ。失敗を繰り返さないように修正していく。そして絶対に良くなるという強い気持ちが大切だよ」

▽錬士の部（487名）

範士の部終了後、錬士の部の演武が行われた。5つの射場に分かれ、各射場で演武が披露された。そして、競技には79名が進み、射詰3射目（星的1射目）を的中させたのは増井淳（栃木）、花井聡（愛知）、増田恭子（徳島）、生方美代（埼玉）、片山正美（静岡）の5名。射詰4射

目で最初に矢を引くのは増井。増井はこれを的中させると、次に引いた花井も中てる。続く3名は失中し、射詰5射目には増井と花井が挑むこととなった。勝負の5射目、増井が放った矢は的から外れる。花井はゆつくりと会に入り、矢を放つと小気味良い音が場内に響き、見事的中。花井が嬉しい初優勝を飾った。

◎優勝Ⅱ花井聡はなゐ さとし 錬士五段（愛知）

「今日は、国体で育ててくれた先生方に恩返しをしたいと思いつつ、弓を引きました。もともととはあがり症でしたが、国体では緊張しないという精神面を鍛えてもらいました。そういう精神面を鍛える大切さも後輩に伝えて、古豪・愛知の復活を目指していきたいですね」

▽有段者の部（77名）

5月3日

有段者の部の参加資格は称号を持たない四段以上。競技には129名が進出した。射詰3射目では11名が的中させるが、4射目を的中させたのは岡本肇（広島）、湯矢奨（三重）、吉田真紀子（大阪）の3名。5射目、岡本は堂々とした会から矢を放つと、これを的中させる。残る2名は失中し、岡本の初優勝が決まった。

◎優勝Ⅱ岡本肇おかもと けんぞう 四段（広島）

「優勝できて、嬉しいという気持ちとびつくりしている気持ちが入り混じっています。今日は力まないうに引くことを心がけました。ですが、まだまだ未熟な部分もありま



教士の部入賞者=左から5位・北川氏、3位・上岡氏、優勝・原田氏、2位・吉田氏、4位・向江氏



錬士の部入賞者=左から5位・生方氏、3位・増田氏、優勝・花井氏、2位・増井氏、4位・片山氏



有段者の部入賞者=左から5位・竹島氏、3位・湯矢氏、優勝・岡本氏、2位・吉田氏、4位・有森氏



教士の部・優勝=原田友康七段(愛知)

す。来年はさらに力みをなくして大会に臨みたいと思います」

▽教士の部(512名)

競技には69名が残った。射詰3本目には19名が進むが、的中させたのは5名のみ。4射目ではさらに3名が脱落し、5射目は原田友康(愛知)と吉田佳史(徳島)の一騎打ちとなった。4部門最後の優勝の行方を、観客は固唾を飲んで見守った。先に引くのは原田。落ちていて臨めたという原田の矢は、的に吸い込まれていく。ここで会場は大きな拍手に包まれた。続く吉田は悔しい失中。原田が初優勝に輝いた。

◎優勝 原田友康七段(愛知)

「この大会には何度か出場していましたが、今回初めて予選を通過することができました。射詰競射ではカメラのシャッター音が聞こえたり、床の感触を確かめられたり、落ち着いて臨むことができました。一本でも長く引きたいという感じでしたね。弓道では勝ち続けるということが難しいですが、来年も頑張りたいです。また、全日本選手権でも結果を残せるように稽古していきます」

【大会結果】

◇範士(優秀者) 本多政和(愛知)

◇教士 ①原田友康(愛知)

②吉田佳史(徳島)

③上岡優子(愛知)

④向江富士夫(熊本)

⑤北川正明(三重)

◇錬士 ①花井 聡(愛知)

②増井 淳(栃木)

③増田恭子(徳島)

④片山正美(静岡)

⑤生方美代(埼玉)

◇有段者 ①岡本 肇(広島)

②吉田真紀子(大阪)

③湯矢 奨(三重)

④有森照美(岡山)

⑤竹島昌典(大阪)



好評発売中

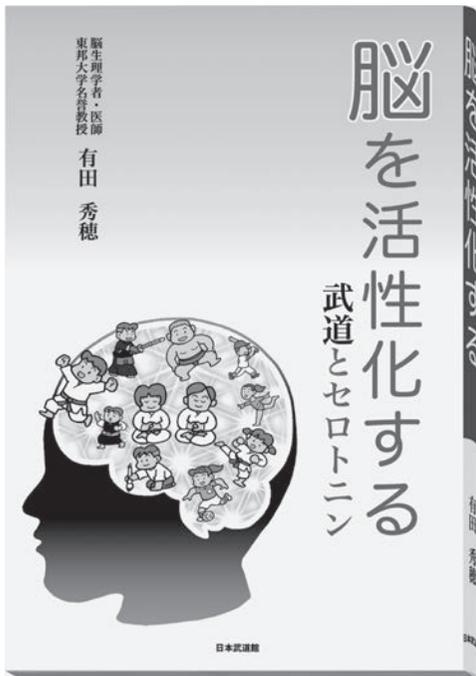
脳生理学者・医師
東邦大学名誉教授

有田 秀穂 著

脳を活性化する

武道とセロトニン

人間の心身を安定させ、「無心」の状態を作るセロトニン神経―その研究の第一人者が、丹田呼吸法を手懸かりに、武道や禅、日本文化を題材として、誰もが
できる脳を活性化する方法をわかりやすく解説。



A5判・並製・346頁・1600円+税



有田 秀穂
(ありた・ひでほ)
昭和23年(1948)東京都生まれ。東京大学医学部卒業。東海大学医学部助手、筑波大学基礎医学系講師、東邦大学医学部教授を経て、現在、東邦大学名誉教授。脳生理学者、医師。セロトニン道場代表。

主な内容

第1部 脳の活性化とは

坐禅とセロトニン

ストレッチとしごき

空海はセロトニン活性の達人

『弓と禅』に学ぶ身体トレーニング

沢庵の「不動智」とワーキングメモリー

不動明王と心の三原色

『弓と禅』に学ぶ無意識の自己意識

悪夢を消すには？

精進料理とセロトニン合成

「茶の湯」とセロトニンの生活

「自然に体が動いた」を脳科学で解く

勝海舟の「明鏡止水の心」を脳科学する

「武道の礼法」は社会脳を育む

相撲の「四股」は品性を育む

書道も心技体の人間修行

アンドロゲンと闘争心

日本の祭にはセロトニンがたっぷり

スキンシップとオキシトシン

空手の稽古は坐禅修行に通じる

脳は「丹田呼吸法」をどう操るか

試合における最適な覚醒状態

サイエンスは「気」をどこまで解明したか

仙人術を脳科学する

第2部 対談「武道で脳を活性化しよう」
日本武道館会長 松永 光
東邦大学名誉教授 有田 秀穂

： 他

編集・発行 日本武道館
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp
お問い合わせ・ご注文は TEL03(3216)5147
日本武道館出版広報課 FAX03(3216)5158
までどうぞ！

日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

(翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット)

(B5判・上製・DVD付・336頁)



武士道に学ぶ

皇學館大学教授

菅野 覚明 著

(四六判・上製・344頁)



武道の礼法

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家

小笠原清忠 著

(四六判・上製・278頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



<増補版>

私も武道経験者です

月刊「武道」記者

吉野 喜信 著

(四六判・上製・326頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)



武道・ スポーツの真髄

スポーツドクター

辻 秀一 著

(四六判・上製・248頁)



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



武の素描

埼玉大学教授

大保木輝雄 著

(四六判・上製・220頁)

第63回全日本銃剣道優勝大会

新設
女子の部

北海道選抜Aが 初年度優勝を飾る



女子の部・決勝＝中堅戦、北海道選抜A・石岡（左）による上崩



山崎幸二
防衛省統合幕僚監部統合幕僚長



赤池誠章
参議院議員



臼井日出男
日本武道館理事長



番匠幸一郎
全日本銃剣道連盟会長

第63回全日本銃剣道優勝大会（主催Ⅱ全日本銃剣道連盟、後援Ⅱ防衛省、スポーツ庁、日本スポーツ協会、日本武道館、日本武道協議会ほか）が4月21日、全国から4部門（一般の部、女子の部、防衛省第1部、防衛省第2部）計280チーム、およそ1400名の監督・選手が参集し、日本武道館で開催された（本年より女子の競技人口拡大のため、女子の部が新たに創設された）。

女子の部では、北海道選抜A（北海道）が山形県選抜（山形）を3-0で降し、誉れある初年度優勝の栄に浴した。なお、北海道選抜Aには日本武道館賞が贈られた。

一般の部では、本間道場（神奈川）が防衛大学校A（神奈川）を3-0で破って、事実上の3連覇を果たした。

防衛省第1部では、第50普通科連隊（高知）が第17普通科連隊（山口）に3-2で競り勝ち、四国勢で初めて頂点に上り詰めた。

防衛省第2部では、日本原駐屯地（岡山）が宿敵の対馬駐屯地（長崎）を4-1で降し、雪辱の栄冠を勝ちとった。



選手宣誓を行う野原崇選手（一般の部・神奈川・本間道場）

試合は、全4部門いずれも団体戦によるトーナメント方式、3本勝負、時間3分とし、時間内に決しない場合は判定によって勝敗を決し、勝者数の多いチームを勝ちとした。

開会式では番匠幸一郎全日本銃剣道連盟会長が挨拶を行い、臼井日出男日本武道館理事長、赤池誠章参議院議員、山崎幸二防衛省統合幕僚監部統合幕僚長が来賓祝辞を述べ、野原崇選手（一般の部・神奈川・本間道場）が選手宣誓を行った。



第1回銃剣道選手権大会（昭和32年）

本大会は、昭和32年に第1回銃剣道選手権大会として開催され、昭和・平成と、戦後の銃剣道の振興普及の一端を担い、その軌跡を刻んできた。

平成最後の銃剣道大会となり一つの節目を迎えた今大会では、新たに女子の部が設けられた。銃剣道界ではますますの競技人口拡大が期待され、今後も本大会が果たす意義は深い。



女子の部・決勝＝先鋒戦、北海道選抜A・寒河江（左）が下胴で先取る

■女子の部（47チーム・154名）

今大会で新たに創設された女子の部で、抜きん出たのは北海道選抜A（北海道）。北海道選抜Aは寒河江と石岡の両名が高校生ながら見事な活躍を見せてポイントを上げ、ベテラン大野がチームをうまくまとめ準決勝まで順調に勝ち進んだ。準決勝では、神奈川県選抜（神奈川）を2―1で破り、決勝へと進んだ。

決勝の相手は山形県選抜（山形）。準決勝で山形県選抜は第9特科連隊（岩手）を2―1で降している。

▽決勝

北海道選抜A 3―0 山形県選抜

寒河江瑞希 下上― 山崎安希子

石岡悠来 上下― 山口百香

大野裕美 カ上― 佐藤 栞

先鋒戦、開始早々に北海道選抜A・寒河江が鮮やかに下胴を決めた。勢いに乗った寒河江は、山形県選抜・山崎の攻撃を躲（かわ）しながら迫り、さらに上胴を重ねた。先鋒戦は寒河江の二本勝となった。

中堅戦、寒河江に続きたい北海道

選抜A・石岡。開始直後、石岡は山形県選抜・山口の上胴へ飛んだ。これが見事に決まって一本。主導権を握った石岡は、その後も山口に対して上胴、下胴と攻め立て、下胴を重ねて勝利。北海道選抜Aの優勝が決まった。

大将戦、北海道選抜A・大野が二本勝を収めて、優勝に華を添えた。北海道選抜Aが山形県選抜を3―0のストレート勝ちで降して、初年度優勝の栄に浴した。

◎優勝 北海道選抜A（北海道）

寒河江正博監督

「優勝できて率直に嬉しいです。初めての女子の部ですので、嬉しさもひとしお入です。去年の都道府県対抗では途中で負けてしまいました。1年間努力した成果が出たのかなと思います。そこまでの重圧はありませんでした。メンバーは道内ですが同じところに住んでいる訳ではありませんので、週3回は1カ所に集まって稽古を重ねてきました。チームではベテラン大野がリーダーシップを発揮して、寒河江・石岡の高校生2人を優勝させたいという気持ちでやって



一般の部・決勝＝中堅戦、本間道場・野田（左）が下胴で勝利を呼び込んだ

きました。でも本人（大野）が一番嬉しいと思いますよ（笑）」

■一般の部（46チーム・151名）

準決勝で、昨年優勝の本間道場（神奈川）は群馬からつ風（群馬）を3-0で破って決勝へと勝ち進んだ。

本間道場は2年前も神奈川県選抜として優勝を果たしており、事実上の3連覇を狙う。

対して、防衛大学校A（神奈川）は、2回戦で昨年準優勝の九徳塾（滋賀）に2-1で競り勝ち、決勝に駒を進めた。

▽決勝

本間道場 3-0 防衛大学校A

野原 崇 下判—上 黒木攻樹

野田峻佑 下— 松原和希

鈴木崇之 上— 永石剛士

先鋒戦は、防衛大学校A・黒木が攻めてきた本間道場・野原に上胴で返して先取る。しかし、野原は猛攻を仕掛ける。手数で勝る野原がついに下胴を決めて、試合は振り出しに戻った。その後も野原が攻め続けるが試合は終了。判定により野原が

勝利した。

中堅戦、本間道場・野田と防衛大学校A・松原が激しい攻防を展開する。後半に松原が連続で突いてきたところを野田が下がりながら下胴を決めて先取。そのまま試合が終了し、野田が一本勝。本間道場の優勝が決まった。

大将戦では、本間道場・鈴木が上胴を決めて、3-0で本間道場が神奈川勢同士の決勝戦を制して、事実上の3連覇を達成した。

◎優勝Ⅱ本間道場（神奈川）

安西直毅監督

「今年も決勝の舞台に來られたことに感謝いたします。神奈川同士の決勝戦でもあり、いい試合ができたと思います。3年前は神奈川選抜として出場し、優勝しましたが、この強いメンバーでした。ですので、今回は事実上の3連覇を達成することができました。今年はまだみな社会人となり、十分な稽古時間が取れていませんでしたが、その中でも、選手たちは集中していい試合をしてくださいと思います」



防衛省第1部・決勝=大将戦、50普通・吉田（左）が判定で競り勝った

■防衛省第1部（72チーム・430名）

準決勝で、第50普通科連隊（高知）は、昨年覇者の第42即応機動連隊（熊本）に4―1で勝利し、初めて決勝に進出した。

決勝は、第17普通科連隊（山口）と対戦した。

▽決勝

50普通 3―2 17普通

西山寛樹 下―上 添田勝久

外山欽一 ―判 磯部基史

加藤久幸 下― 青木良平

菅野純一 ―判 中谷和彦

吉田勝士 判― 山崎隼人

先鋒戦、開始直後の突きの攻め合いでは、17普通・添田に旗2本が上がり、添田が上胴で先取した。負けじと50普通・西山も突き攻め合いで下胴を奪取した。さらに西山が下胴を決めて、二本勝となった。

次鋒戦、50普通・外山と17普通・磯部の対戦では、磯部が判定により勝利した。

中堅戦、50普通・加藤と17普通・青木の対戦は、加藤が下胴で一本勝

を収めた。

副将戦、50普通・菅野と17普通・中谷との対戦は判定により中谷の勝利。2―2で勝敗は大將戦に持ち越された。

大將戦、17普通・山崎は序盤から激しく攻め立てるものの、50普通・吉田からポイントは奪えない。吉田は返し技を狙って山崎を翻弄する。時間一杯となり、結果は判定に委ねられた。旗3本が吉田に上がって、50普通が競り勝った。3―2で第50普通科連隊は四国勢で初めて頂点上り詰めた。

◎優勝Ⅱ第50普通科連隊（高知）

根本努監督

「四国に優勝旗を持って帰るのが、うちの部隊が初となりましたので、すごく嬉しいですね。去年はベスト16で負けてしまいました。今年は、メンバー一人一人が自分で考え、稽古を積み重ねて優勝という目標に向かっていました。始まる前から大將の吉田選手には『大將戦になったら、任せろ』という気持ちでしたので、信じていました。最後は判定で競り勝つてとても嬉しかったです」

■防衛省第2部 (115チーム・667名)

決勝は、日本原駐屯地(岡山)と対馬駐屯地(長崎)の対戦。日本原は4年前に11回の連覇が途絶え、雪辱を誓った一昨年、昨年と対馬に続けて敗れている(3年前は熊本地震の影響により中止)。日本原にとつ

て因縁の対決となった。

▽決勝

日本原	対馬
4-1	
二宮祐樹 上上	岩橋 練
徳田裕人 下	尾碓秀次郎
大庭裕二 判	森田年彦
厨子真守 上上	山下圭太
藤原考貴 上上	竹中宏信



防衛省第2部・決勝=副将戦、日本原・厨子(右)が上胴で優勝を決めた

先鋒戦、日本原・二宮が対馬・岩橋から上胴を2本決めて勝ちを収めた。

次鋒戦では対馬・尾碓が下胴で、中堅戦では日本原・大庭が判定によって勝利し、日本原が2-1と優勝に大手をかけた。

副将戦、日本原・厨子が対馬・山下から上胴を先取。さらに山下の動きを見極めて、退きながら2本目となる上胴を決めた。この時点で日本原の優勝が決まった。

大将戦、一昨年全日本選手権覇者の日本原・藤原が、対馬・竹中から上胴2本を決めて圧勝。4-1で日本原駐屯地が対馬駐屯地を破り、悲願の王座奪還を果たした。

◎優勝II日本原駐屯地(岡山)

上田啓二監督

「4年前に11連覇が途絶えてから、王座奪還だけを目標にやってきました。本日、優勝することができ、選手をはじめ、支えてくれた家族に感謝したいと思います。これからも引き続き、連覇できるように日々精進したいと思います」

【大会結果】

▽女子の部 ①北海道選抜A(北海道) ②山形県選抜(山形) ③第9特科連隊(岩手)、神奈川県選抜(神奈川県)

▽一般の部 ①本間道場(神奈川県) ②防衛大学校A(神奈川県) ③新潟県選抜A(新潟)、群馬からつ風(群馬)

▽防衛省第1部 ①第50普通科連隊(高知) ②第17普通科連隊(山口) ③第40普通科連隊(福岡)、第42即応機動連隊(熊本)

▽防衛省第2部 ①日本原駐屯地(岡山) ②対馬駐屯地(長崎) ③北熊本駐屯地(熊本)、(空)百里基地(茨城)

※来年度の第64回全日本銃剣道優勝大会は、千葉県四街道市の四街道総合公園体育館で開催予定です。

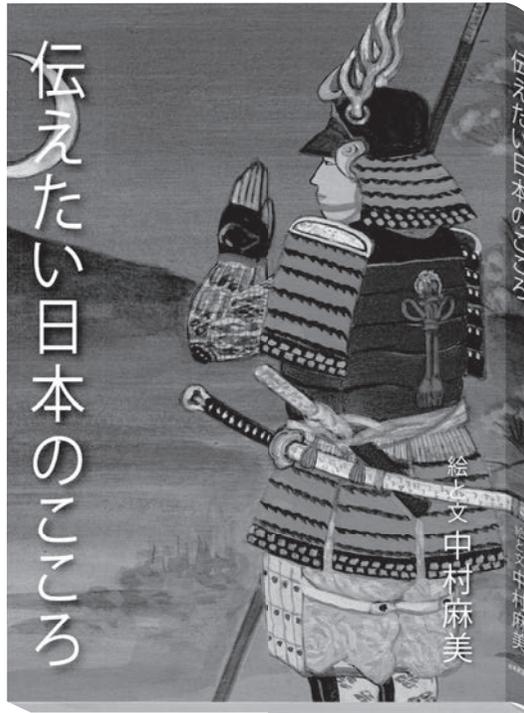


好評発売中

絵と文 中村麻美 (なかむらまみ)

F4判・上製・98頁・定価(本体2700円+税)

伝えたい日本のこころ



中村麻美 (なかむらまみ) 画家・挿画家。三重県津市生まれ。県立津西高校、津田塾大学卒。大学在学中、日本画教室(田中峰雪氏に師事)にて作画の基礎を学ぶ。英語個人教授業、第十八代ミス日本グランプリ、NHK BSニュースキャスター、絵本翻訳業を経て、絵画を志す。大和草、茶花などを題材とした日本画の本画を制作し、書籍、雑誌、新聞、テレビ番組などで歴史もの、武人画、創業者などの挿画を手がける。また、原作新聞小説

挿画を描いたNHK大河ドラマ『天地人』放映の平成十九年以降は、歴史上の人物の本画作品制作にも新境地を開いている。代表作に『天地人丸紋絵巻』(兼続お船ミュージアム所蔵)、『斎王』(三重県立高宮歴史博物館所蔵)など。

月刊「武道」の美しいカラー表紙絵の中から45点を精選。岩絵具で描いた日本画と解説文で「日本のこころ」をお届けします。

「ひとに愛されたい、必要とされたい、社会をよくするため役立ちたい。よき人間でありたい、そしてみんなが幸せであってほしい」——こうした万国共通の願い、祈りを育て、磨くためにも、確かな手がかりとなるすばらしい逸話ばかりです。(本書「あとがき」より)

目次

- 一 かしこい小僧さん
- 二 ひよどり越え
- 三 天の石屋戸
- 四 巖流島の決闘
- 五 太田道灌と少女の歌
- 六 三本の矢の教え
- 七 山中鹿介―我に七難八苦を与えたまえ
- 八 良寛さまと笛
- 九 民を慈しむ仁徳天皇
- 十 中江藤樹―母への葉
- 十一 夫の危機を救う弟橘媛
- 十二 良子齋王―別れの御櫛
- 十三 桜井駅の別れ
- 十四 川中島の大蛇
- 十五 八坂の戦い―謙信と信玄
- 十六 紅梅内侍と鶯の宿
- 十七 新羅三郎義光―笙の秘曲を授ける
- 十八 小松姫―夫の居城を守りぬく
- 十九 青の洞門
- 二十 鍋島直茂と接ぎ木
- 二十一 小林虎三郎―米百俵の精神
- 二十二 島津義弘―関ヶ原敵中突破
- 二十三 光明皇后―千人のからたを洗う
- 二十四 城戸俊三―勝利を捨てて愛馬を救う
- 二十五 松坂の一夜
- 二十六 柳に飛びつく蛙
- 二十七 称名寺『青葉の楓』
- 二十八 神武天皇と東征
- 二十九 本多忠朝とサンフランシスコ号
- 三十 つるべの朝顔
- 三十一 野中兼山―海に捨てたはまぐり
- 三十二 鉢の木
- 三十三 因幡の白うさぎ
- 三十四 堪忍のわび証文
- 三十五 橘曙覧『独楽吟』
- 三十六 南総里見八犬伝
- 三十七 吉田松陰の志
- 三十八 鳥居強右衛門の勇氣
- 三十九 明智光春―誉れの湖水渡り
- 四十 赤穂義士の討ち入り
- 四十一 頼朝を助けた梶原景時
- 四十二 真田幸村―大坂の陣
- 四十三 天照大御神と美し国・伊勢
- 四十四 和田勇―祖国にオリンピックを招致
- 四十五 長岡花火『白菊』

編集・発行 公益財団法人日本武道館
 〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
 ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
 日本武道館出版広報課
 まどどうぞ!

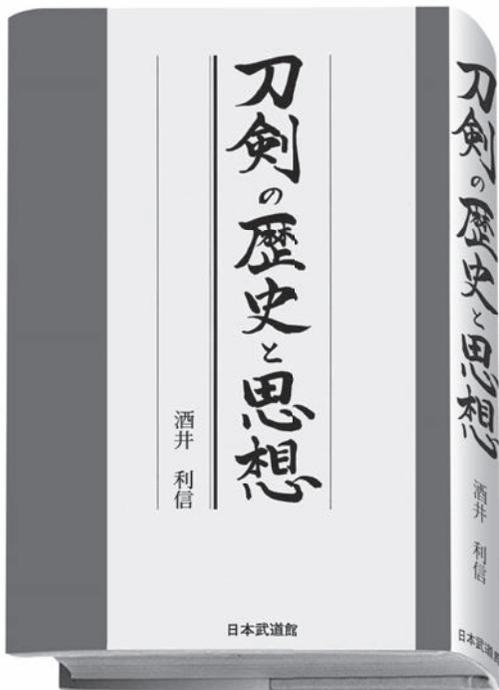
TEL03(3216)5147
 FAX03(3216)5158

◎好評発売中

筑波大学教授 酒井利信 著
四六判・上製・346頁・本体2400円＋税

刀剣の歴史と思想

刀剣を単なる武器としてではなく、
神聖なものとして捉える思想とは何か――



題字揮毫―鹿島神宮 鹿島則良 宮司

日本独自の展開をみせてきた刀剣に関する思想を、中国、朝鮮など、東アジアにまでルーツをたどりながら、確かな史料を基に考察。古事記・日本書紀に語られる神話、平家物語・太平記などにみられる三種の神器にまつわる記述、鹿島新當流、示現流に伝わる伝書といった歴史的文獻を読み解き、日本刀剣思想のオリジナリティを浮かび上がらせる。

目次

終章	『稽古照今』
序章	探求の旅をはじめににあたって
第二章	刀剣の歴史
第三章	刀剣思想の源流
第一節	古代中国の宝剣伝説 太阿の劍
第二節	干将莫耶の宝剣伝説
第三節	高祖の斬蛇劍
第四節	道教と劍
第五節	古代朝鮮の刀剣思想
第二章	神話的イメージの形成
第一節	神話的世界の形成と劍神の誕生
第二節	天より降る劍 節靈劍
第三節	天地を繋ぐ劍 草薙劍
第三章	信仰のなかの刀剣思想
第一節	祀る劍 祀られる劍
第二節	辟邪の呪劍
第三節	うけいの呪術と劍
第四節	修験道と劍
第四章	中世における刀剣思想
第一節	三種の神器の不思議
第二節	『平家物語』にみる三種の神器
第三節	『太平記』が語る草薙劍像
第五章	近世劍術における刀剣思想
第一節	劍術伝書に語られる日本神話
第二節	新當流にみる靈劍の技術
第三節	示現流にみる心の利劍
第四節	近世劍術における刀剣思想の展開
第六章	近現代における刀剣思想
第一節	近代以降の刀剣思想
第二節	古代と現代を繋ぐ刀剣
第三節	鹿島神宮日本刀奉納鍛錬

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158



月刊「武道」は、全国の書店で販売しています。